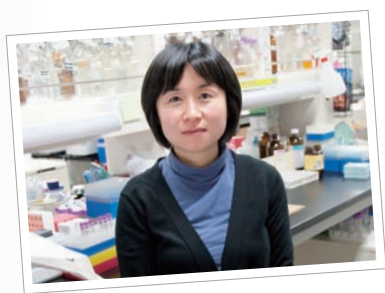


輝く、研究者たち

PD
▶▶

職業として研究できる幸運



2010年4月からグローバルCOEリサーチアソシエイトとして生殖発生分野(山田源教授)でお世話になります。これからどのような研究をしたらよいのか、そもそも研究を続けていけるのかと、自分の能力と近年の厳しい研究員雇用環境を認識しつつ、自問する毎日です。そのような状況の中、リサーチアソシエイトとして研究に従事できることはとてもありがたいことです。

私は研究員2年目で研究歴は浅いのですが、職業と研究内容が何度か変わった

経歴があります。学士、修士課程の3年間は農学部でイネの光合成と個体成長について学びました。研究は独創的で魅力がありましたが、先生方の偉大さに圧倒され、おこがましくも、あの頂上には到達できないと感じ、先生と一緒に撮ったイネの写真が雑誌の表紙を飾ったことをきれいな思い出とし、公務員になりました。福島県いわき市の保健所で、環境衛生監視員として3年間働きました。今でも受水槽や公衆浴場のチェックはできると思います。大事でハードな仕事でしたが、自分の性格と合わなかったため、民間企業に転職しました。転職先は、大学と共同研究をしている会社で、面接官は前ボスの古関先生(理研)でした。会社の手違いで、植物系の面接に行ったつもりが動物系の面接でしたが、何でもやりますと元気に答えそのまま採用となりました。以降7年間、古関研でお世話になりました。その間、博

職名 COEリサーチ・アソシエイト
氏名 原田理代 Masayo Harada
現在の分野 生殖発生分野
研究テーマ 「外生殖器発生機構の解明」

士課程入学、会社退職、会社倒産、論文がまとまらず博士号取得後も研究生等を経て、2009年に念願の論文が受理され、発生医学研究所特定事業研究員として山田研に就職が決まりました。振り返れば、7年間、競争相手も無く、納得がいくまで一つの事象を追求できたのは幸運なことでした。

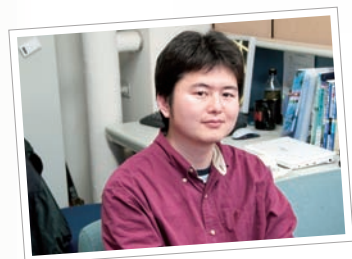
現在は、研究内容も研究スタイルも新たに、大勢の学生さんに囲まれ、試行錯誤の毎日です。新しい挑戦です。山田先生のご指導の下、もっと面白くて巧妙な生命の仕組みを見つけたい！頑張ります。



用具がさびないように、掃除するための歯ブラシは必需品。右は長年愛用しているペンケースと腕時計

PD
▶▶

野望



人物紹介ということで、私に文章を書かせていただく機会をいただき、光栄に思っています。2010年度から、グローバルCOEリサーチアソシエイトとして、働かせていただけることになりました。熊本大学大学院医学教育部で学位取得後就職し、少し熊本を離れていたのも、また発生研で研究できることを喜ばしく思っています。

現在は、造血幹細胞の発生・分化制御に関する研究を行っています。基本的には、細胞の分化をコントロールすること面白く思っています。博士課程で

は、造血に対して抑制的に働く遺伝子を見出し解析したので、今度は機能を失った組織を再生させるために、未分化細胞が増える・積極的に分化する、というポジティブに働く遺伝子や方法を見出したいです。実験は、細胞に作成した組換え遺伝子の遺伝子導入や、増殖因子の添加などの遺伝子組み換え、化学的刺激した細胞を培養し解析していました。近年、熊本大学では細胞の挙動に影響を与える物理的な刺激も扱っているようなので、これまでの手段に加えてまた新しいものにも触れてみたいですね。会社では細胞を触る頻度は少なかったのも、久しぶりに細胞培養をすると研究所は特殊環境なんだと実感しました。発生研でしかできない経験がたくさんあるので、それに触れる機会を十二分に活かしていきたいです。

最後にですが、2010年冬季五輪が終わりました。モーグルでは、これまでの見た

職名 COEリサーチ・アソシエイト
氏名 大津直樹 Naoki Ohtsu
現在の分野 組織幹細胞分野
研究テーマ 「造血幹細胞の分化制御メカニズムの解明」

目重視からスピード重視へ、フィギアスケートはジャンプの難易度重視から全体の見た目重視へと高く評価されるポイントが変わっていました。しかし評価を無視し、自分のスタイルで力を出し切った日本人選手には非常に感動しました。研究でも短い期間で手堅い実験をやって、結果を論文という形にしていけないと続けていくことは難しいようですが、それに加えて自分を表現できるようなオリジナルな実験も手掛け、ブレークスルーを目指したいです。今後とも、よろしくお願い致します。



実験で使用する、組織切り出しセット

このパソコンで、研究成果を発表。左上の万年筆も、論文を書くときの必需品

OB
▶▶

Studying Axon guidance mechanisms from Kumamoto to Yale University

I would like to thank GCOE for giving me a chance to write in its first Newsletter. It was a great opportunity for me getting MONBUKAGAKUSHO scholarship for PhD study in Japan. I joined Professor Tanaka's lab in October 2002. During my PhD, I worked on identification of novel axon guidance proteins. As a consequence, we found a repulsive axon guidance protein draxin that is essential for normal formation of spinal cord and forebrain commissures. The novelty of our work led it to be published in Science journal. Over the past decades, our understanding about molecular mechanisms of axon guidance has advanced markedly. Including draxin, a numbers of axon

guidance proteins and their receptors have been identified. However, an ultimate challenge in neurobiology is to understand how the great diversity of guidance information is integrated at the level of a single advancing growth cone in vivo and how the guidance receptors transmit their signals. In order to further elucidate how intricate pattern of neuronal connections is achieved with high precision during development, I stay in Neurobiology field and joined Dr. Stein lab in Yale University. Currently, I am working on axon guidance receptor proteins to know how they transmit intracellular signals mediated by guidance cues. Beside my career-oriented reason, I

氏名 Md. Shaidul Islam
現在の所属 Yale University
職名 Postdoctoral Associate
熊大在学時の所属分野 神経化学分野

moved to USA as a postdoc leaving permanent job in Kumamoto University as Assistant Professor, there are some reasons regarding my family. I have two sons and I want them to grow up in English speaking country. In addition, I have also Japanese language barrier, although I can speak Japanese little bit but neither I can write nor read. Always, I had to ask our lab secretary for any official issue that gradually became embarrassing for me. Except the language issue, I enjoyed Kumamoto life very much and always miss it. Finally, I would like to express my gratitude to Kumamoto University and GCOE to support my work.

OB
▶▶

2010 ～ロサンゼルス～

私は、2005年4月から2009年3月まで熊本大学発生医学研究センター(現、発生医学研究所)、細胞識別分野(現、腎臓発生分野)の西中村隆一教授の下、博士課程の大学院生として4年間所属していました。現在は、VAGLAS (VA Greater Los Angeles Healthcare System) at Sepulveda (地名)のRenal Regeneration研究室にてポストドクとして腎臓再生の研究に従事しています。VAとはアメリカの退役軍人を管理する組織

のことで、各地に病院や研究所があり、現在はそこのランチに動いています。研究室は教授、ポストドク2人、技術補佐員2人で構成されています。もう1人のポストドクも日本人のため、なかなか英語になじめないのが少し悩みなのですが、生活のセットアップなど助かることもかなり多かったのよかったです。

教授は腎臓の近位尿細管のトランスポーターに関わる仕事をしていたのですが、腎臓再生のテーマを3年前くらいから

氏名 由利俊祐 Shunsuke Yuri
現在の所属 VA Greater Los Angeles Healthcare System at Sepulveda
職名 Postdoctoral Fellow
熊大在学時の所属分野 腎臓発生分野

新たに立ち上げ、腎臓発生分野に明るいポストドクを探されていました。現在の教授が西中村教授に相談された際に、私を紹介していただき、それがアメリカへと渡る縁となりました。私自身は腎臓の発生や特に腎臓の再生医療に興味があったので、今はそれに則した研究を自由にさせていただいております。とても充実しています。英語は苦手だったため、思えば、熊本大学発生医学研究センターはグローバルCOEが採択されて以降、グローバル化を目指して、発表やセミナーが英語となったことが、私にとってはよかったのだなと思っています。今はロサンゼルスで青い空と太陽の下で気持ちよく野球をしたり、テニスをしたり、海へ行ったりして体を動かして楽しく過ごしています。

